

《二〇二〇年度 第二回試験 国語》解答例

□一 問一 ① げんせん ② 限(られて) ③ 照(らして) (2点×3)

問二 1 ウ 2 エ 3 ア (3点×3)

問三 イ、オ (完答4点)

問四 (最初) 日本語には (最後) う場合だ。(3点×2)

問五 (最初) 自分というもの (最後) でありつづける(3点×2)

問六 エ(5点)

問七 (1) 性格が穏和になり、他の人との接し方が柔らかくなる効果。(6点)

(2) 日本語を使う時には、状況や他者との関係を読み取った上で、自己を規定したり、話し相手の気持ちを察したりする必要があるから。(8点)

□二 問一 ① 必死 ② どくは ③ 一冊 ④ 飼(い)主(2点×4)

問二 エ (5点)

問三 イ (5点)

問四 あこがれ (5点)

問五 顔 (3点)

問六 「玲美」のみようにずれたところに親しみを感じ、それまで遠いあこがれの存在であった「玲美」が自分と対等になったようであれしく思ったから。(8点)

問七 (1) 自分と「玲美」のタイプはちがいが、自分が「玲美」と一緒にいても引き立て役にしかならないということ。(8点)

(2) 「文乃」に対していかりがこみ上げ、また、言う通りであることを認めているから。(8点)